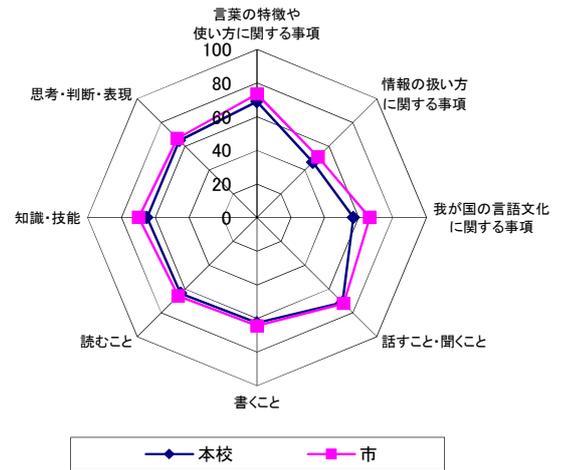


# 宇都宮市立五代小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.0	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	46.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	56.9	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	71.2	72.3	73.7
	書くこと	62.6	64.3	66.6
	読むこと	63.7	65.8	64.9
観点別	知識・技能	64.9	69.8	70.8
	思考・判断・表現	64.8	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

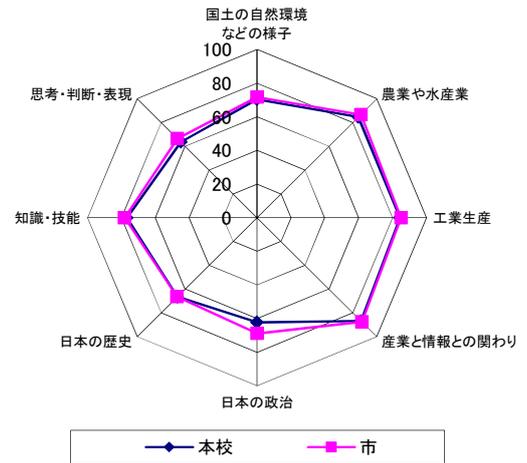
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う問題では、正答率が市や全国を上回っている。 ○第6学年に配当されている漢字を正しく読む問題において正答率が高い。 ●第5学年に配当されている漢字を正しく書く問題において、市の平均を10ポイント以上下回り、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・継続的に漢字の読み・書きを繰り返し定着を図る。前学年までの既習の漢字についても復習する機会をつくっていく。 ・時と場に応じた言葉遣いができるよう、学校生活の中で誤った使い方をしたときには、細やかに指導していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低いだが、前年度と比較するとその差は小さい。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて、文章を簡単に書く問題において正答率が低い。	・日常的に文章の中にある情報を整理したり、図表・グラフの意味を読み取って活用したりする活動を取り入れる。 ・情報の扱い方の基本的な力を身に付けさせる手立てとして、複数の情報を比較したり関連性を見付け出したりしながら目的に応じた文章を書けるよう支援していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低いだが、前年度と比較するとその差は小さい。 ●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解する問題において、正答率が低い。	・今後も、漢字の学習や意味調べなどを通して漢字や言語に親しむ機会を設けていく。 ・和語を漢語や外来語に言い換えたり、その逆の言い換えをしたりする活動を行い、語彙を増やせるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉える問題において市の平均正答率と同程度である。	・一問一答式の受け答えだけに留めず、日常会話に会話が深まるような質問をし合う活動を取り入れ、会話スキルの向上を図る。 ・意見交換や討論の場において、自分と相手の意見を比較したり吟味したりする経験を積めるように指導していく。 ・立場や順序を明確にした話し合い活動を通して、話し方や聞き方などの基本的な力を身に付けられるように支援する。
書くこと	平均正答率は、市の平均正答率よりやや低い。 ○予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く問題では、市の平均正答率より2.9ポイント高い。 ●自分の意見とその理由を明確にして書く問題では、市の平均正答率よりやや低い。	・授業のまとめや振り返りを簡潔な文章で記述する習慣を身に付けさせることで、要点を落とさずまとめる力の向上を図る。 ・様々な分野の文章を読む機会を増やすと共に、目的や意図に応じて、どのような書き方の工夫があるか意見交換させるなどして、表現の工夫の仕方を身に付けさせていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均正答率より低いだが、前年度と比較するとその差は小さい。 ○説明文の叙述を元に文章の内容を捉える問題では、市の平均正答率を0.2ポイント上回っている。 ●物語の内容をから、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題において正答率が低い。	・物語の内容を読み取る学習においては、場面ごとの内容や、登場人物の心情の変化を丁寧に読み取る活動を大切にし、叙述を正しく読み取れるよう支援していく。 ・引き続き、朝の読書の時間や図書委員会の企画等を活用して、児童が読書に親しみ、読む楽しさを味わえるよう指導していく。

# 宇都宮市立五代小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.4	71.6	69.6
	農業や水産業	84.6	86.7	83.7
	工業生産	84.3	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	86.8	87.7	77.4
	日本の政治	62.3	68.9	71.7
	日本の歴史	66.5	66.7	66.3
観点別	知識・技能	76.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	63.6	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

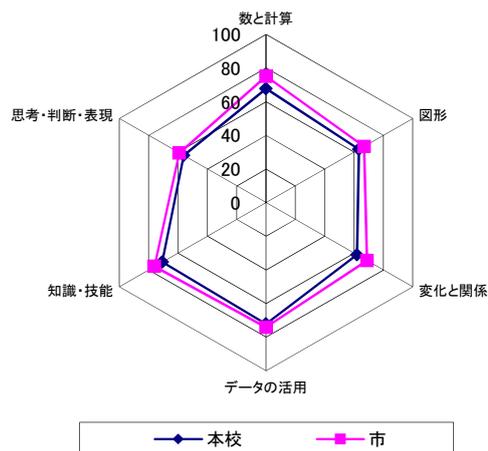
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均正答率と比べて高い項目が多い。 ○日本の周辺の海洋名や地形の名称に関する問題での正答率が高い。 ●オーストラリアの位置と国旗に関する問題での正答率が低い。	・地図帳を活用し、国の名称や国旗、位置関係を関連付けながら、知識を広げられるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い項目が多い。 ○水産物の流通の工夫に関する問題での正答率が高い。 ●米の生産工程や生産が盛んな地域に関する問題での正答率が低い。	・地図帳を活用し、都道府県の位置と主な農産物の産地を関連付けながら、知識を広げられるようにする。 ・資料を活用しながら農業の基礎・基本となる知識の定着を図る。
工業生産	平均正答率は市の平均正答率と比べて低い項目が多い。 ○自動車の製造工程に関する問題での正答率が高い。 ●工業製品の分類や日本の工業の特色に関する問題での正答率が低い。	・工業の分類や製品などの基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・複数の資料を比較し、内容を読み取る活動を多く設定していく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。 ○様々なメディアの特徴や情報の発信と受信の注意点について考える問題での正答率が市と同程度。 ●林業や沖縄県での自然環境を守る取り組みに関する問題での正答率が低い。	・資料を活用しながら自然や環境などの基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・児童にとって身近な資料を使用し、生活の中の情報について、関心をもって追究したり考えたりすることができるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い項目が多い。 ○日本国憲法の国民の義務や国民と国会、内閣に関する問題での正答率が高い。 ●日本国憲法の天皇の地位や内閣に関する問題での正答率が低い。	・資料を活用しながら日本国憲法や内閣の基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・日本国憲法の学習の際、資料を活用しながらしっかりと捉えられるよう指導していく。 ・図を用いて相互の関連性を考えながら、仕組みについて考える活動を多く設定していく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率と比べて高い。 ○縄文時代の生活や元との戦い、書院造りや鎖国に関する問題での正答率が高い。 ●大王や源氏物語、源平の戦いや鉄砲に関する問題での正答率が低い。	・歴史的な事象のつながりや、歴史上の人物の業績などを表や図を用いて整理してまとめ、基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ表現する時間を設定し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。

# 宇都宮市立五代小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.8	75.1	75.8
	図形	63.3	66.8	68.3
	変化と関係	62.1	68.8	65.0
	データの活用	72.1	74.1	63.6
観点別	知識・技能	70.7	76.1	75.8
	思考・判断・表現	56.0	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

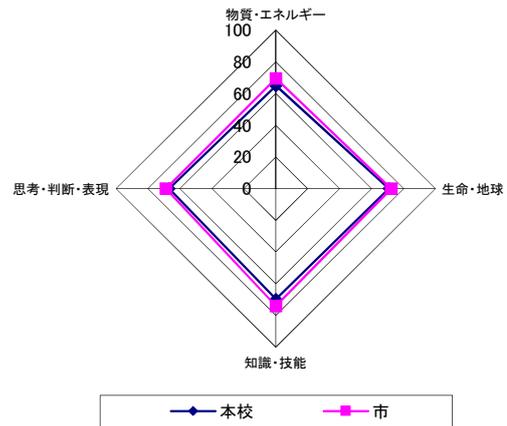
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○文字を使った式の計算は、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●小数同士のかけ算、通分を伴う分数のたし算の計算は、市の平均正答率を10ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・分数や小数の計算では、児童の理解度に応じて、前年度までの学習である「かけ算九九」を復習しつつ計算に取り組ませていく。</p> <p>・計算の技能には、個人差があるため、習熟度別学習や個別指導の機会を活用したり、朝の学習の時間や家庭学習などでAIドリル等を繰り返し学習させたりすることで、個に応じた指導の充実を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低いですが、前年度や他の領域と比較するとその差は小さい。</p> <p>○円の面積を求める式、円の中心の周りにできる角の大きさを求める問題は、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●角柱の体積を求める問題では、市の平均正答率を10ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・既習事項の知識を組み合わせで解いたり説明したりする問題に関しては、習熟度別学習で応用問題を取り上げるなど、児童の理解度に応じた学習の仕方を工夫する。</p> <p>・立体図形を扱う問題は、立体を実際に組み立てる活動や1人1台端末の教材を活用する活動を通して、図形構成の理解の定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低いですが、前年度と比較するとその差は小さい。</p> <p>○表から面積と数の割合を求め、混み具合を考察する問題は、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>●基準量と比較量から割合を求める問題は、市の平均正答率を10ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・割合・割合のグラフの問題に関しては、「基準量 比較量 割合」の関係を明確にさせたり、数直線などの図を用いて求める数量を視覚的にとらえられるような工夫をしたりしながら、何を求める問題なのかをきちんと把握させ、問題に取り組む力を付けていく。</p> <p>・「速さ 道のり 時間」の関係については、公式の理解のみではなく、日常生活の場面を取り上げるなどし、生活の中で思考・応用できる力を身に付けていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低いですが、前年度や他の領域と比較するとその差は小さい。</p> <p>○値に0があり、答えが小数になる量の平均を求める問題、4日間に走った道のりの平均から2週間に走ると考えられる道のりを求める問題は、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●「平均・データの見方」の中央値を求める問題は市の平均正答率を10ポイント以上下回り課題が見られる。</p>	<p>・ドットプロットやヒストグラムなどの資料を読み取る問題に関しては、算数用語をしっかりと押さえ、それぞれの資料の特長や使われる場面などを理解したうえで、問題に取り組むような学習活動を展開する。</p> <p>・自分の考えを説明する問題に関しては、式から答えに至る過程を筋道を立て、論理的に思考・記述する力を日頃の授業の中で身に付けていく。</p>

# 宇都宮市立五代小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.0	69.5	65.2
	生命・地球	70.9	72.3	70.1
観点別	知識・技能	69.7	74.0	70.7
	思考・判断・表現	66.8	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○物のとけ方の分野で水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法の問題では市の平均より5.6ポイント高い。</p> <p>○電流と電磁石の分野で、電流の向きを変えたときの電磁石の向きを考える問題では、市の平均より高い。</p> <p>●ふりこの分野で、同じ周期になるふりこを指摘する問題では、正答率が市より20ポイント以上低い。</p> <p>●水よう液の性質の分野で、鉄やアルミニウムは、うすい塩酸にとけることを理解しているかどうかの問題の正答率が市より低いですが、全国よりは高い。</p>	<p>・授業の中で、予想・結果の考察・まとめ・振り返りの時間を十分に取り、見通しをもって活動する中で、科学的な見方や考え方が深められるように支援していく。</p> <p>・実験を行う際は、使用の目的や器具の操作方法を丁寧に示していく。全ての児童が実際に操作を行えるよう配慮する。</p> <p>・キーワードや実験記録ノートを確認したり、映像資料を活用したりして理解させるようにしていきたい。</p> <p>・対照実験を行う際には、条件を揃えることの必要性に触れ、目的をはっきりさせながら実験を行うようにする。具体的には、同じにする条件と変える条件を児童1人1人に考えさせ、条件の統一を確実に身に付けるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○月と太陽の分野で、月の形が変わって見える理由を考察する問題では、市の平均より高い。</p> <p>○流れる水のはたらきの分野で、仮説が正しいといえるための結果を推測する問題では市の平均より高い。</p> <p>●動物のつくりとはたらきの分野で、かん臓のはたらきに関連する問題では、正答率が市より低い。</p> <p>●月と太陽の分野で、全く光が当たっていないように見えるボールの位置に関する問題の正答率が市より低い。</p>	<p>・全模型や動画の視聴など、視覚的に捉えられるような指導の工夫により、理解を深められるようにするまた、教科書の確かめ問題やまとめの部分・復習プリントなどを活用し、既習内容を確認することで定着を図っていく。</p> <p>・月の満ち欠けに関しては、自作のモデルや動画を活用するなどして対応し、視覚的に分かりやすくしたため、理解が高まったと言える。</p> <p>・普段の生活の中においても自然の現象に着目し、「なぜ」「どうして」と疑問をもつ機会を増やしていくようにする。</p>

## 宇都宮市立五代小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の知識・技能の確実な習得を目指す。</li> <li>主体的に学習に取り組み、自分の力で課題を解決できる手立ての工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。</li> <li>結果の予想や課題解決の仕方や手順など、学習の「見通し」を立てられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取る力の基礎となる「語彙力」を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における、語彙力、読解力の育成を意識した活動を取り入れる。</li> <li>読書活動の推進、コグトレ、カードゲーム、MIMなど学力向上の支えとなる土台づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の物語の内容を読み取る問題において、登場人物の心情について、描写を元に捉える設問は市の平均正答率を下回っているが、人物像を具体的に想像したり、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げたりする設問においては、市の平均正答率と同程度であった。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

次年度は、文章の内容や意味を理解するために必要な読解力を高める取り組みに力を入れていく。国語の学習において、文脈から意味を推測したり、語彙力を増やしたりすることで、文章を読む際の基礎となる力の習得を目指すし、目的や意図に応じて文章から必要な情報を読み取ることのできる力を育成していく。また、基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細やかな指導を展開し、基礎基本の確実な定着を図る。(少人数指導、かがやきルームの活用、朝の学習の効果的な運用)